

## 序 章 概 要



## 序 章 概要

### 第 1 節 離職者訓練における職業能力評価に関する調査研究について

急速に変化する社会経済情勢に伴う人材ニーズの変化や多様化に対応した職業訓練を実施していくためには、人材ニーズに応じた訓練分野の特定、訓練カリキュラムの設定、効率的な訓練の準備、訓練進捗状況のチェック、訓練効果の客観的な評価といった訓練の実施プロセスを明確にするとともに、常に評価、見直しを行うようなサイクルシステムが必要である。

この中でも特に、国のセーフティネットとして短期間の職業訓練で雇用の安定につながる就職を可能とする離職者訓練においては、職業訓練により習得した職業能力を客観的かつ公正に評価し、就職支援となる証明の仕組みを構築することが重要である。

そこで、離職者訓練の品質の向上、受講者の就職促進等に資するため、離職者訓練における職業能力評価の仕組みを明確にすることを目的として、職業訓練により習得した職業能力を評価するためのシステムを開発することとした。

### 第 2 節 離職者訓練における職業能力評価の検討

本研究では、外部から招聘した方々を委員として構成した「離職者訓練における職業能力評価検討部会」（以下「検討部会」という）を開催し、離職者訓練における職業能力評価の仕組みについて検討を行い、離職者訓練における技能・技術及び知識の評価に焦点をあて、以下に示すような内容をポイントとして職業能力開発施設で活用しやすいように手引きとして取りまとめた。（別添「離職者訓練における職業能力評価に係る手引き」参照）

#### 2-1 評価の手順について

職業能力評価の手順は、職業訓練により受講者が習得した技能等をどの時期に、どのような方法によって評価するかを検討し、総合的な訓練課題（実技及び学科）を設定して、訓練課題（実技）の評価を記載するシート等を用い、評価を行う。

さらに、評価結果の分析、訓練課題や訓練内容等の見直しなどを行い、効果的な職業訓練の実施に向けて改善を図る。

#### 2-2 訓練課題（実技）について

訓練課題（実技）は、受講者が履修した訓練科目における技能等の訓練内容を総括し、

受講者の最終目的である就職に直結できるよう、訓練課題（実技）の内容から実際の仕事がイメージしやすい内容のものを設定することを前提とした。

### 2-3 作業工程計画書の作成について

訓練課題（実技）の設定において、「作業工程計画書」を取り入れた。

このことにより、完成作品だけでは測ることのできない受講者の計画性、作業手順や作業に対する留意事項の把握状況、安全衛生に対する理解度等を評価することができる。

### 2-4 安全面について

訓練課題の設定、訓練課題の実施などにおいて、訓練課題のねらいをおさえながら安全について充分考慮した内容となる必要がある。

訓練課題実施中においては、指導員は常に安全衛生に充分留意して訓練課題を遂行することが必須である。

項目別の採点に係る数値設定においても、安全衛生については0点または5点等と設定し、正否のような判断とするなど評価数値の設定の工夫をすることとした。

### 2-5 訓練課題（実技）の評価項目について

訓練課題（実技）実施後に、評価を記載するシート（以下「訓練課題確認シート」という）に求められる項目は次のとおりである。

#### （1）訓練課題のねらい

訓練課題が何を評価する内容なのかを示す。

#### （2）仕事との関連

訓練課題（実技）がどのような仕事とつながりがあるのかを示す。

#### （3）評価する能力

どのような能力を評価するか具体的に示す。

#### （4）評価区分

訓練課題（実技）において評価判定する区分を示す。

### **(5) 評価項目及び細目**

どのような視点で、どのような内容を評価するのかを明確に示す。

### **(6) 評価基準**

客観的かつ具体的な評価基準を示す。

### **(7) コメント**

受講者の訓練受講における取組姿勢や訓練課題の完成の度合いなどを記す。

## **2-6 評価要領について**

訓練課題確認シートにて評価する際に、評価担当者がどのような視点でどのように評価するかを記載する「評価要領（採点要領）」を作成することとした。

また、評価担当者の解釈によって評価の結果が大きく異なることのないよう、わかりやすく具体的で詳細な採点要領を作成するよう提案した。

## **第3節 職業能力評価に係る訓練課題（実技及び学科）の作成について**

独立行政法人雇用・能力開発機構（以下「能開機構」という）の職業訓練指導員を委員として構成した「離職者訓練における職業能力評価に係る課題作成部会」（以下「訓練課題作成部会」という）にて、能開機構で実施している離職者訓練（システム・ユニット訓練）をモデルとした訓練課題（実技及び学科）をテクニカルオペレーション科、電気設備科、住宅リフォーム技術科、マネジメント情報システム科について作成した。

## **第4節 まとめ**

今回提案した離職者訓練における職業能力評価の仕組（離職者訓練における職業能力評価に係る手引き）については、良い仕組としてできあがったと考える。今後は、実際にこの職業能力評価の仕組を活用した事例などを収集し、一定の指針として提供していきたい。

訓練課題（実技）は、職業訓練の成果を評価する内容とするために訓練内容をどのように取り入れ、実際の企業のニーズや仕事に密接な内容となっているかが重要である。

職業能力評価を実施することにより、その結果から得られたことを訓練に活かし、訓練課題と訓練内容の両方の充実を図ることが必要である。

また、今後は、企業が採用基準として求めているヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルに対して、職業訓練においてどのように対応するか、職業訓練のあり方や職業能力評価について検討することは大きな課題となる。